

文京遺跡VI—文京遺跡25次調査—

正 誤 表

頁	行	誤	正
ii	38	SS-210 (88)	SX-210 (88)
3	59・60	水田畔畔の検出行っていくが、	水田畔畔の検出を行っていくが、
36	54	上部を水田耕作土と床土を	上部の水田耕作土と床土を
37	図26		差し替え
50	図31	[SS15-SD22水口部]	[SS015-SD023水口部]
51	7	[SD22水口部]	[SD023水口部]
53	表4	図31-5遺構・地区；SD33	図31-5遺構・地区；SD023
57	56	(図35・36、巻頭図版1、図版4・5)	(図38・39、巻頭図版1、図版4・5)
69	49	東と北へは調査区外へと水田面が広がる。	東と北は調査区外へと水田面が広がる。
72	図44	72内面トーン	72内面トーンなし
76	52・53	可能性のある面を、調査区東壁では	可能性のある面が、調査区東壁では
82	27	(図48・49、巻頭図版2、図版6～8)	(図51・52、巻頭図版2、図版6～8)
87	22・23	高さ3cm前後の畦畔でSX-208と、	高さ3cm前後の畦畔でSX-207と、
87	28	SS-207との水口部は詳細不明。	SX-207との水口部は詳細不明。
88	27	[SS-210]	[SX-210]
88	34	高さ4cm前後の畦畔がSS-308と	高さ4cm前後の畦畔がSS-208と
101	8・9	(図59・60、図版9～12)	(図62・63、巻頭図版3、図版9～12)
106	2	1～20は、	4～20は、
119	5	前者はやや縦長、後者は横長。	前者はやや横長、後者は縦長。
122	図81	133口縁復元ライン	133口縁復元ラインなし
123	28	(図83～126、図版19～24)	(図83～126、図版19～24、表12)
132	24	76～389の314点を提示する。	76～392の317点を提示する。
132	26・27	76～86が坏蓋、87～105が蓋坏である。	76～85が坏蓋、86～105が蓋坏である。
132	36	87は高くのびる口縁部で、	86は高くのびる口縁部で、
132	38	短く突出する受け部をもち、	短く突出する受け部をもつ。
132	38・39	口縁部を欠失する。89も同様とみられ、	口縁部を欠失する89も同様とみられ、
138	9	277の内面上半横方向のヘラケズリを施し、	277は内面上半横方向のヘラケズリを施し、
154	30	469～470は	469～471は
154	37・38	頸部で明確に屈曲して直線的に開く頸部	明確に屈曲して直線的に開く頸部
158	5	「く」の次状に短く内側に屈曲させる。	「く」の字状に短く内側に屈曲する。
158	12	524～572は壺底部。	524～574は壺底部。
158	81・82	卓越しないのが609～611。	卓越しないのが607～611。
182	表13	445器種；甕	445器種；壺
190	10	(図128・129)	(図128・129、表14)
200	46・47	(図68・75～77・107～119)	(図71・78～81・105～119)
200	65	(図68-133)	(図71-133)
200	72	37次調査X区で	34次調査X区で
201	11・12	(図64～69・73～76・83～85・87～104等)	(図64～69・73～76・83～85・87～102等)
201	14	奈良二彩 (図65)	奈良二彩 (図68)
201	16・17	(図66・73・101・102)	(図69・76・101・102)
201	17・18	(図55-24)	(図58-24)
201	18	灰釉陶器 (図64)	灰釉陶器 (図67)



図26 25次調査・18次調査のⅡ-2-②層(上層水田)出土遺構配置図(縮尺1/300)